

OB紹介

敬愛大学野球部から社会人野球へ

去年は社会人野球日本選手権大会に先発出場

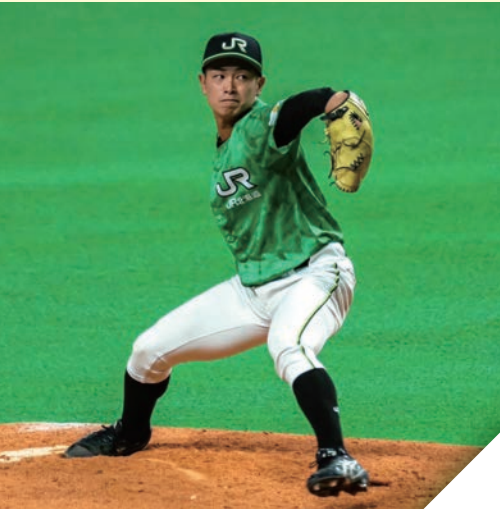
「社会人野球は、応援合戦の盛り上がりも特徴。京セラドームでも北海道から駆けつけた応援団がお揃いのタオルを振ってスタンドに陣取り、社歌の『北の大地』の演奏と合唱が鳴り響いた。」



「北海道地区予選を競り勝って臨んだ全国大会でしたが、全国に出てくるチームは強い。勝つには個人としてもチームとしてもレベルアップしなければならないと痛感しました」と語る。



「対戦相手の応援もすごくて、ドームが華やかな雰囲気になっていましたね。自分は賑やかな応援が好きですし、楽しめる方なので「フアンシヨ」が気に入りました」と笑つた。



「北海道地区予選では最高殊勲選手賞（MVP）を獲得、「地区予選大会の決勝戦でいいピッチングができ0点に抑えられたことが評価されました」と振り返る。

思い返せば、中学・高校生時代に所属していた野球チームの指導者が社会人野球経験者で、日本選手権大会観戦でたびたび京セラドームに連れて行ってくれた。そして「いつかここで投げたい」と憧れ続けた場所でもあった。

「大人が本気で1試合にかけて全力を出し切って野球をしていることに感激しました。自分も大人になって、こんなに熱くなれることがしたい」と思つたのです。その夢が叶つたのですから、嬉しかったですね」と語る。

2022年の入団当初、社会人野球で苦戦をするのではないかと不安も少なからずあった。そんなときに、大崎投手の支えになったのが敬愛大学野球部での実績と経験だ。

「リーグ戦で実戦の経験値をたくさん積んできたことが自信につながりました。大学野球のリーグ戦という負けられない大舞台で投げさせていいただき、地区予選の決勝戦や、全国大会の初戦といった緊張する場面でも平常心で投げることができました。また、今年から投手の副リーダーを任されています。ここでも敬愛大学で投手リーダーを務めたことが活かせると思います」

社会人野球「二大大会のうちのひとつと都市対抗野球では、北海道地区予選で1次予選は突破したが、2次予選は2勝1敗で出場を逃した。「都市対抗野球で次に勝つ」と北海道勢100勝目になります。今年こそ本戦に出場して100勝目の勝利投手になることを狙っています。もちろん、日本選手権で勝つことも目標です」と2024年シーズンの抱負を語る大崎投手。さらにその先の夢も既に芽生え始めている。「プロ野球も視野に入れています。社会人野球でプロ野球に行っている人を間近で何人も見て、自分も挑戦したいと意欲が湧いてきました」

野球の道をまっしぐらに進む卒業生の活躍を見守り、これからも熱い声援を送りたい。

JR北海道硬式野球クラブ入団2年目で、2023年は社会人野球日本選手権大会に出場するなど目覚ましい活躍を見せる大崎投手。社会人野球での手応えや大学野球部で得たことなどについて語ってもらった。

JR北海道硬式野球クラブ

大崎 黎

Profile

オオサキ レイ

和歌山県出身、智辯学園和歌山高校を経て敬愛大学経済学部に進学。敬愛大学野球部では4年生の春季リーグ戦で最多勝と最多奪三振王を受賞。2022年に卒業し、JR北海道硬式野球クラブ入団。所属先は北広島駅でオフシーズンは改札と出札業務を担当。ポジション:投手、投打:右/右、身長:174cm、体重:74kg、背番号19、年齢:24歳

2023年度 敬愛大学体育会所属クラブ活動報告(大会結果等)一覧		2023年10月31日現在
女子バレーボール部		
▶2023年度春季関東大学女子2部リーグ戦(4月～5月 敬愛大学、神奈川大学、早稲田大学)		10勝0敗 優勝
【優秀選手賞】 井手 はるか		
【スパイク賞】【ブロック賞】 チュク ビヨンセ サトミ		
【サーブレシーブ賞】【リベロ賞】 工藤 唯夢		
▶2023年度春季関東大学女子リーグ戦1部2部入替戦(5/28 松蔭大学)		●敬愛大 0-3 松蔭大○(14-25, 15-25, 15-25)
▶第42回東日本バレーボール大学選手権大会(6月21日～22日)		1回戦 ○敬愛大 2-0 中央大●(25-16, 25-13)
2回戦 ○敬愛大 3-0 育英大・短大●(25-9, 25-8, 25-13)		
3回戦 ●敬愛大 1-3 嘉悦大○(19-25, 28-30, 25-19, 18-25)		
▶2023年度秋季関東大学女子2部リーグ戦		(9月～10月 神奈川大学、立教大学、大東文化大学)
8勝1敗 準優勝		
【敢闘選手賞】大木 春香(3年)		
【サーブレシーブ賞】【リベロ賞】 菊池 さくら(1年)		
▶2023年度秋季関東大学女子リーグ戦1部2部入替戦(10月28日 国士舘大学)		●敬愛大 0-3 桜 美 林 大○(17-25, 21-25, 17-25)
▶第70回秋父宮妃賜杯全日本バレーボール大学女子選手権大会(11月 大田区総合体育館)		○敬愛大 3-0 東海学院大●(25-21, 25-12, 25-18)
●敬愛大 0-3 東 海 大○(17-25, 7-25, 22-25)		
野球部		
▶2023年度千葉県大学野球春季リーグ戦<1部>		(4月～5月 長生の森公園野球場他)
3勝10敗1分 勝点0 6位		
▶2023年度千葉県大学野球春季1部2部入替戦		対 清和大学 2勝0敗 1部残留
▶2023年度千葉県大学野球新人戦 (6月 長生の森公園野球場他)		1回戦 対 清 和 大 学 8対5 ○
2回戦 対 東京理科大学 10対0 ○		
準決勝 対 城西国際大学 1対2 ●(ベスト4)		
▶2023年度千葉県大学野球秋季リーグ戦<1部>		(9月～10月 長生の森公園野球場他)
2勝9敗1分 勝点1 6位		
▶2023年度千葉県大学野球秋季1部2部入替戦		対 千葉工業大学 2勝0敗 1部残留
少林寺拳法部		
▶第60回関東学生大会		男子単独有段の部 本選 近藤 第10位
女子単独有段の部 本選 鳥飼 第7位		
▶2023年少林寺拳法千葉県大会(6/11 船橋総合体育館)		大学生単独の部 近藤 第2位 寺田 第3位 鳥飼 出場
▶第19回少林寺拳法関東学生新人大会(9/10 慶応義塾大学日吉キャンパス)		単独有段の部 近藤 出場 寺田 出場
▶2023年少林寺拳法世界大会(10/7～10/8 日本武道館)		国内予選 女子単独有段の部 鳥飼 出場
硬式テニス部		
◆男子成績		
▶関東学生テニストーナメント大会<個人戦>>(4月～5月 各大学テニスコート)		シングルス 2次予選出場 大川 透也
▶千葉県学生テニス対抗戦<団体戦>(5月～7月 各大学テニスコート)		【男子2部リーグ】※3部リーグ制(1リーグ当たり4大学構成)
1回戦 対 順 天 堂 大 学 3-6 敗退		
2回戦 対 明 海 大 学 7-2 勝利		
3回戦 対 千葉商科大学 6-3 勝利 2勝1敗 入替戦出場決定		
入替戦 対 麗 澤 大 学 2-7 敗退 2部準優勝(6位 16大学中)		
▶関東学生テニスリーグ<団体戦>(8～9月 各大学テニスコート)		
【男子7部リーグ(予選)】※7部リーグ制		
1回戦 対 千葉工業大学 9-0 勝利		
2回戦 対 麗 澤 大 学 5-4 勝利		
3回戦 対 大東文化大学 4-5 敗退 2勝1敗 予選Dリーグ突破		
【男子7部リーグ(本戦)】※創部20年初の快挙		
1回戦 対 高崎経済大学 7-2 勝利		
2回戦 対 上 智 大 学 0-9 敗退		
順位戦 対 電気通信大学 5-4 勝利		
順位戦 対 横浜市立大学 4-5 勝利 7部リーグ6位(31大学中)		
▶関東学生テニス対抗戦<団体戦>(11月下旬～ 各大学テニスコート)※無差別リーグ		
1回戦 対 武蔵大学 4-1 勝利		
2回戦 対 駒沢大学 0-5 敗退		
3回戦 対 中央大学 0-5 敗退		
▶千葉県学生テニストーナメント大会<個人戦>(12月～ 各大学テニスコート)		本選出場 大川・佐藤組 角田・久保村組
◆女子成績(現在休部中)		
バスケットボール部		大会出場なし

会長あいさつ

超える力



体育会会長
中山 幸夫
(学長)

昨年3月のWBC優勝の感動は今も大きな余韻として残っています。「憧れるのをやめましょう。ファーストにゴールドシュミットがいたり、……外野にムーキー・ベッツがいたり、野球をやっていたら誰しも聞いたことがあるような選手たちがいると思う。憧れてしまつては超えられないので、僕らは今日超えるために、トップになるために来たので。今日一日だけは彼らへの憧れを捨て、勝つことだけ考えよう。憧れを捨て、勝つことを前に、このように仲間たちを鼓舞した大谷翔平選手(現ドジャース)の言葉は、スポーツの世界の枠を超えて永遠に語り継がれる名言となるでしょう。」

本学は開学から半世紀以上を経過し、2年後には開学60周年、学園も創立100周年の節目を迎えます。そして、大学の歴史とともに歩んできたのが課外活動としてのクラブ、部活動であり、とりわけ体育会の部活動は、多くの点で注目を集めてきました。まさに学生スポーツは「大学の華」であり、スポーツの果たす役割と影響力は、様々な意味で大きなものがあります。

体育会所属の各部は、今年度もそれぞれに努力したようですが、そこから先の壁を超えるには至りませんでした。壁を突破するには何が必要で、どうすればよいのか。体育会の各部においては、ここ一番で「超える力」を発揮できるよう、個人とチームで真剣に考え、力を磨いてくれることを期待します。

敬愛大学体育会 活動報告会開催

令和5年12月15日(金)、敬愛大学体育会活動報告会を行いました。

体育会会長の中山学長より開会挨拶の中で、大学発展のために学生スポーツの大切さと、OB・OGによる応援もいただき期待を担って活動しているということ。春のリーグ戦まで十分に準備をし、とにかく各部これまでの成績を超えようという応援の言葉をいただきました。

その後、今年度の各部活動報告がなされました。女子バレー部は入替戦において敗退してしまい、1部リーグ昇格まであと一歩と惜しい成績でした。来年度に期待するところです。

最後に学生部長 佐々木先生の総評として、学生スポーツは愛校心の大きな要素となるもので、より高みを目指して頑張りたいというお言葉がありました。

以上をもつて今年度の活動報告会は閉会となりました。



UNIVAS

救命講習会

敬愛大学では2023年度より一般社団法人 大学スポーツ協会(以下UNIVAS)に加盟しました。今年度の取り組みは、UNIVAS主催の各種研修会の案内、事故発生要因や安全に関わるガイドラインの配布、大学運動部における力パナンス手引書の配布などを行いました。また、UNIVASが主催するUNIVAS AWARDS2023・2024 Winner of the year部門において、本学4年生(国際学部 佐藤姫夏さん)が応募し見事入賞しました。

令和5年12月18日(月)に体育会所属部を対象にした救命講習会が開催されました。

講師は本学学生相談員の林 泰子先生(日本赤十字社救急法指導員)に依頼し、日本赤十字社の救急法を実施しました。各所属部から代表者が集まり、手当の基本や人工呼吸、心臓マッサージの方法、AED(自動体外式除細動器)の使用方法をレクチャーしていただきました。また、最後には各部の活動場所である稲毛キャンパス・佐倉キャンパスにあるAEDの設置場所を確認し、講習会は終了しました。





少林寺拳法部

「新しい部員にもぜひ少林寺拳法の楽しさを味わってほしいですね。僕は敬愛大学に入ってから少林寺拳法がこんなに楽しくなったのかと驚きました。高校までは厳しい練習の毎日。それが必要なことです。」



少林寺拳法部主将
経済学部 経済学科 2年

近藤 龍騎



切磋琢磨しあえる仲間と練習環境に恵まれた敬愛大学だからこそ少林寺拳法に取り組みることが楽しいと感じられる

「2023年千葉県大会大学生単独の部で、近藤主将が2位、寺田ヘンリー準入選手が3位を獲得。関東学生大会では近藤主将と女子の鳥飼智美選手が予選を突破して本戦に進むなど堅実に実績を積み上げている少林寺拳法部。」

「2024年は関東学生大会で上位を目指していますね。関西は競争が激しいですけど、関東圏内ならベスト8を狙えるのではないかと考えています」

「4月からリターナーとして少林寺拳法部を率いることになる近藤新主将。今年は新入生2名の入部が決まっている。」

「新しい部員にもぜひ少林寺拳法の楽しさを味わってほしいですね。僕は敬愛大学に入ってから少林寺拳法がこんなに楽しくなったのかと驚きました。高校までは厳しい練習の毎日。それが必要なことです。」

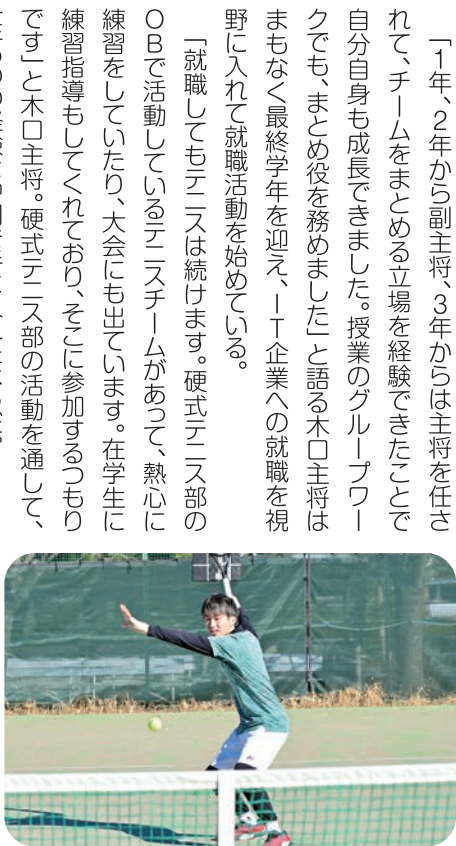


硬式テニス部

団体戦では関東学生テニス対抗戦で7部予選を突破して本戦に出場し、その本戦で6位を獲得。個人戦では4年生の大川透也選手が関東学生テニストーナメント大会で2次予選に進出。2023年は、団体・個人ともに、硬式テニス部史上最も良い成績を残すことができた。その原動力となったのが、主将を任された4月からスタートさせた月に1度の定期ミーティングだ。

「個人の課題を発表し、1か月間どのような練習に取り組みかを話し合う場を作りました。課題を周りの人に伝えることで、お互いに注意し合える環境ができたのがよかったと思います。」

不定期で行っていたミーティングを毎月開催にしたのは、学生支援室主催のリーダー研修で他の部がミーティングによって選手の意識が



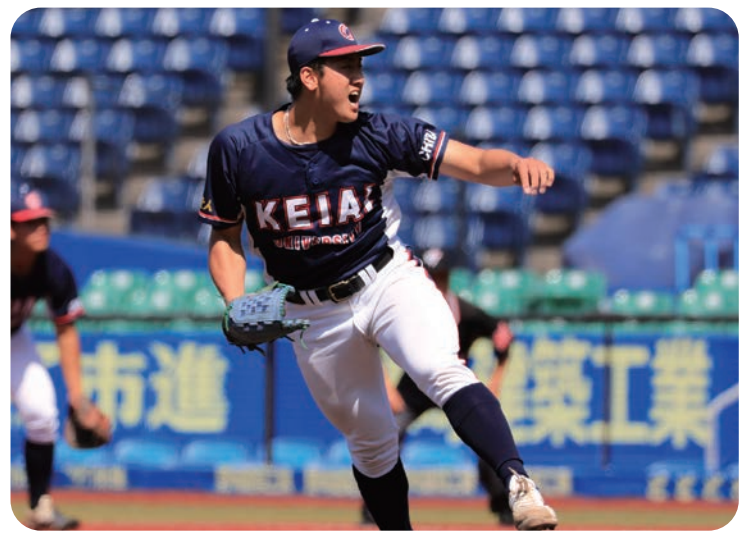
硬式テニス部主将
経済学部 経営学科 3年

木口 快斗

団体戦・個人戦の両方で創部20年初の快挙
関東学生テニス対抗戦で7部本戦出場、
大川選手が2次予選出場



野球部



野球部主将
経済学部 経済学科 3年

松波 律樹

春季リーグ、秋季リーグで入替戦を戦い2連勝で1部残留を死守
投・打の信頼関係を強化して1部優勝、全国大会出場を目指す

藤川正博新監督を迎え、新体制で臨んだ2023年。春季リーグは3勝10敗で6位、入替戦で2連勝をして1部残留。秋季リーグも2勝9敗で6位、入替戦2連勝で1部残留を決めた。

「春、秋と連続で入替戦まで行ったのは、ふがいない限りです。昨年はとにかく、ピッチャーとバッターが噛み合っていなかった。ピッチャーがいい日はコースコブなのにバッターが振るわずに負けてしまふ。反対にバッターが打てる日はピッチャーが守りきれずに点を取られてしまった」と松波主将は2023年シーズンを分析する。そこで監督に提案したのは、投手と野手が一緒に練習すること。

「これまで、野手は野手、投手は投手で練習をしてきました。それを全体で練習するスタイルに変えました。練習を通してお互いを理解することで信頼関係が強固になれば、実戦でも投打が噛み合うようになると思ったからです」

藤川監督がチーム作りで大切にしているのは、胆大心小。その考えが全員に浸透するように尽力すること、主将の役割だと語る。

「きめ細やかな練習で数多くの戦術を駆使し、試合では大胆な野球を実践する。技術的な部分だけでなく、練習に向かう姿勢や挨拶などにも真摯な姿勢が求められます。簡単なことではないので、下級生には噛み砕いて伝えたり、一緒にやってみて肩を叩いたりしています」

福岡県出身で強豪校の筑陽学園高校から敬愛大学に入学した松波主将。敬愛大学に入学したのは、強いところで野球がしたいという思いと同時に、教員になる夢の実現のため



バレーボール部



バレーボール部主将
国際学部 国際学科 3年

工藤 唯夢

2部リーグで春季は10戦0敗で全勝優勝、秋季は準優勝を達成
春秋で1部リーグ入替戦に挑むも惜しくも1部昇格はならず



関東大学女子バレーボール2部リーグで春季は全勝し2022年秋季リーグに続く連続優勝。秋季リーグも8勝1敗で準優勝を達成したバレーボール部。1部入替戦に挑むも昇格は叶わず、2024年も2部でスタートすること。

「入替戦は春、秋どちらでも3-0のストレート負け。2部で優勝、準優勝したからといって納得も満足もしていません。入替戦でどう戦ったかが私たちの課題です」と工藤主将。バレーボールは流れのスポートで、どんな試合でも流れが悪くなる瞬間が必ずある。そのときに、悪い流れを断ち切って、いい流れを引き寄せるようにすることが1部昇格への鍵だと分析する。

「わずかでも明るい兆しがあったとき、やっと一点取れたときにみんなで盛り上がり、喜び合ったりすることが積み重なって、少しずつ流れをこちらに回ることが出来ます。そのためには、普段から活気あふれる練習をして元気がみなぎっているチームになることが必要です」

春季リーグではサーブレシーブ賞、リベロ賞の個人賞を受賞した。「嬉しかったんですけど今は個人よりチームのことが最優先です」と笑う。

君津でお好み焼き屋を営む両親のもとで伸び伸び育った工藤主将がバレーボールを始めたのは6歳のとき。ママさんバレーをやっていた母親の練習について行ったことがきっかけで、地域のバレーボールチームに参加。高校は敬愛学園に進み、大学は敬愛大学を選んだ。

「敬愛学園から私を含めて5人が敬愛大学のバレー部に進みました。私たちの思いは一つ、私たちの手で1部に昇格させよう！」

入学してからこれまでの間、何度も入替戦に臨んだが部の壁は厚い。それでも敬愛大学でバレーボールをする選択をして本当によかったと日々実感していると言います。

「何より仲間にも恵まれました。例えば同級生が、練習の中で『こうした方がいいんじゃないか』と提案してくれたら、私だけでは気づけなかったところを指摘してくれたり、頼りになるし、ありがたいと感じています。それから、監督や大学関係者、熱心に応援してくださる敬愛大学のOGOB、そして支えてくれる両親にも常に感謝しています。その感謝に応えるのは部昇格あるのみです」と工藤主将。悲願の部昇格に向けて、チームを引っ張っていく覚悟だ。



2028年ロサンゼルス五輪を目指す 日本女子トライアスロン界のホープ

「私が目指しているのは2028年のロサンゼルスオリンピックへの出場です。そのためには、コンスタントに表彰台上に上れる選手になりたいですね」と語る佐藤さんが大切にしている言葉は「乗り越えた先にしか見えない景色がある」。まだ見ぬ景色を見るために、ひたむきにトレーニングとレースを積み重ねている。



国際学部 国際学科 4年

佐藤 姫夏

Profile

3歳から水泳を始め、小学校からは陸上部にも所属し、小・中・高で水泳と陸上の二刀流で好成績を残す。高校卒業後、NPO稲毛インターナショナルトライアスロンクラブに拠点を置き、バイクにも本格的に取り組み、トライアスロン人生をスタートさせる。

大学入学後にトライアスロンを始め、国内外のレースにチャレンジして、結果を出してきた佐藤 姫夏さん。卒業を目前に控えた今の心境や進路、2024年の抱負を聞いた。

「昨年を一言で表すと、転でした」と笑う佐藤さん。2022年11月にアフリカ首長国連邦で行われたレースで左鎖骨を骨折する大怪我を負い、全く練習できない状態でスタートした2023年。

「ここを、転機にして、生まれ変わった気持ちでトライアスロンに臨もうと決めました」

手術とリハビリを経て挑んだ2023年7月の日本U23スプリントトライアスロン選手権で3位に輝いたほか、9月に開催された日本学生トライアスロン選手権大会(通称インカレ)では4位を獲得した。

「二年を通じて健闘しましたが、千葉県代表として出場した国体で10位、海外の大会でも入賞やトップ10入りで、表彰台まであと一歩。極め付けは日本トライアスロン選手権で、残り100メートルという大歓声のなかで、転倒してして順位を下げてしまったこと。だから2024年で目指すのは起承・転結の結。表彰台上に上るという、結果を出していきたいですね」

3月には大学を卒業し、アスリート雇用で市進ホールディングスに就職することが決まっている。

「私が目指しているのは2028年のロサンゼルスオリンピックへの出場です。そのためには、コンスタントに表彰台上に上れる選手になりたいですね」と語る佐藤さんが大切にしている言葉は「乗り越えた先にしか見えない景色がある」。